

新刊書籍のご案内

『ざんねんないきもの事典』『続ざんねんないきもの事典』『わけあって絶滅しました』（シリーズ）の、丸山貴史氏による、妖怪がどうやって生まれたのかを、イラストをふんだんに使って謎解きした妖怪図鑑!!



進化がわかる 妖怪図鑑

—妖怪はこうして生まれた—

丸山 貴史 著

—目次—

- 第1章 ざんねんな妖怪 八岐大蛇、小豆洗、ろくろ首、鬼など 12妖怪を紹介
- 第2章 せつない妖怪 両面宿儺、餓鬼、コロボックル、猫又など 12妖怪を紹介
- 第3章 わけありな妖怪 くだん、あまびえ、以津真天、天狗など 12妖怪を紹介
- 第4章 いまさらな妖怪 人魚、かまいたち、海坊主、河童など 12妖怪を紹介

定価：本体 1,200 円+税

ISBN：978-4-87738-605-4 C8045 A5並製 144頁 オールカラー 総ルビ

朝の読書にもおすすめです！ 2024年6月下旬発売

妖怪がどうやって生まれたのか？ 闇夜に動物を見た人間の心が妖怪を作ったのか？ 答えは本書で。例えば、ふんどしが進化して一反木綿になり、陸にあがったタコがぬらりひょん？ 進化の視点で妖怪の正体を解き明かしていく、丸山ワールドの妖怪 Book!! 登場。

著者紹介 丸山貴史：1971年、東京生まれ。図鑑制作者として、生きものの面白さを伝えるために活動している。おもな制作物に、『ざんねんないきもの事典』、『続ざんねんないきもの事典』、『わけあって絶滅しました』シリーズなど、精緻なイラスト説明とユーモア溢れる文章で多くの読者の心を驚づかみ!!

発売：紀伊國屋書店ホールセール部 TEL：03-6910-0519

ご注文はこちら >>> **FAX：03-6420-1354**

注文書	番線印	ご注文冊数	発行：株式会社かなえ	発売：株式会社紀伊國屋書店
	様	冊	 <p>進化がわかる 妖怪図鑑</p> <p>—妖怪はこうして生まれた—</p> <p>丸山 貴史 著</p> <p>ISBN978-4-87738-605-4 C8045 ¥1200E</p>	分野：児童書

発行：株式会社かなえ URL <https://kanae-book.co.jp/>

本書の特徴

怖くて悪そうな妖怪を紹介!!
ページをめくると生れたわけを
丁寧でかわいいイラストで説明するよ。



ぬらりひよん 妖怪

DATA: 主な出典: 『百世物語』(在徳寛文/1737年)
伝承のあるところ: 岡山県
大きさ: おじいさんくらい

大きな頭
とくに後頭部がめ
ちゃくちゃでかい。

『百世物語』のぬらりひよん

手足
腕先だけが骨節
から見えている。

短刀
つばのない短刀を
腰に差している。

有名なわりに、ほとんど伝承のない妖怪です。江戸時代中期の『百世物語』では、浪手な童物を着て刀を差し、薬籠から降りてきた姿を描いていますが、どんな妖怪か説明はありません。ところが、昭和前期の『妖怪図鑑全巻』で、「まだ日が暮れたばかりの時間帯に、ぬらりひよんと訪問する怪物の親玉」という説明が加えられたため、以降は「他人の家に上がりこむ怪しい妖怪」あるいは「悪い妖怪たちの総大将」とされるようになりました。

クイズ: なにから進化した?

ぬらりとした海の生きものみたいたよ

ぬらりひよん

瀬戸内海
瀬戸内海には、
船主が出没す
えようと

タコを擬人化したもの?

瀬戸内海ではマダコがよく獲れるので、葉巻がゆるめるする葉巻の形はマダコだった可能性
があります。葉巻に、江戸時代中期に描かれた『百世物語』のぬらりひよんは、ほとんどタコ
です。タコの胴体は頭の上のふくらんだ部分
にあるので、ぬらりひよんの後頭部が大きいのは
そのためでしょう。

刀を差すのはなぜ?

タコの体はぐにやぐにやで骨はありません
が、口は鋭いちばしのようなです。大型の
マダコはこの口でイセエビの殻を噛み砕
き、産卵には使われます。そのため、
ぬらりひよんが刀を差しているのは、噛ま
れたら危険という警告かもしれません。ち
なみに、小形のヒヨウマダコは短刀
なので、噛まれれば死ぬことあります。

こたえ: こうして進化しました!

**めるめるとつかみどころのない
タコが陸に上がって進化したのかも**



いつたんもめん 妖怪

DATA: 主な出典: 『妖怪図鑑』(福由徳勇/1936年)
伝承のあるところ: 鹿児島県
大きさ: アミメシキヘビくらい

巻いて殺す
恐怖の布

二反木綿は、空を飛ぶ木綿の一種です。かなり有名な妖怪ですが、じつは鹿児島県の一部地域に伝承されません。二反というのは、二人分の着物がつくれる量の一種のことです。トイレットペーパーのように巻く布を反物と
いいます。幅は12m、縦は36~38cmく
夕暮れどきにヒラヒラと
るそうです。

体
緑色

色
たいは白。

二反木綿は、空を飛ぶ木綿の一種です。かなり有名な妖怪ですが、じつは鹿児島県の一部地域に伝承されません。二反というのは、二人分の着物がつくれる量の一種のことです。トイレットペーパーのように巻く布を反物と
いいます。幅は12m、縦は36~38cmく
夕暮れどきにヒラヒラと
るそうです。

クイズ: なにから進化した?

ふんとした布の妖怪みたいたよ

いつたんもめん

木綿が普及した江戸時代

木綿の原料は、ワタという植物の実に詰まった白い繊維(綿花)です。日本では長い歴史、綿花を輸入に頼っていましたが、江戸時代になると広く栽培されるようになりました。二反木綿の伝承のある鹿児島県は、木綿の生産が盛んで、綿糸には動力式(蒸気機関)の織機を導入しています。
※糸を織って布にする織機。

身近になったふんどし!

綿花栽培が広まると、やわらかい木綿も高級品ではなくなり、農民の手が届くものになりました。そのおかげで普及したが、ふんどしという綿製の半纏の半纏です。じつは江戸時代になると、農民は下着をつけないのがふつうでした。ふんどしを洗濯したら籠に掛けて干しますが、風に飛ばされて空を舞えば、二反木綿のように見えます。

おとなの都合で広まった?

二反木綿が少なくなると、農民は、おそらく、安くても着たいふんどしを、おどかすために利用されたからでしょう。また、売を反射しやすい白い布は、暑い空ではよく使われます。さらに、ヒラヒラ飛んで空を舞うので、六尺(約1.8m)のふんどしが二反(10m以上)あるように感じたのかもかもしれません。

こたえ: こうして進化しました!

**風に飛ばされたふんどしが
布の妖怪に進化したのかも**



こんな感じ